



図 八海山図幅周辺地域の上越帯と足尾帯「八海山地域の地質」第7図の一部。

5万分の1地質図「八海山」刊行

5万分の1地質図および地域地質研究報告「八海山」が出版されました。著者は、元新潟大学教授の茅原一也、愛媛大学教授小松正幸の両氏です。

「八海山」地域は新潟県南東部に位置し、奥只見湖や越後三山の越後駒ヶ岳・中ノ岳・八海山を含む地域です。この地域の東は「檜枝岐」、南東は尾瀬を含む「燧ヶ岳」になっており、日本海に流れ込む只見川・魚野川と、関東平野を縦断して太平洋に流れ込む利根川の源流部にもなっています。地質調査は困難を極めたと想像されます。

「八海山」地域は、上越帯および足尾帯に属しており(図)、地質学的には非常に重要な地域です。上越帯は、飛騨外縁構造帯のフォッサマグナ東方への延長と考えられており、この地域では主として層状構造を示す中ノ岳変斑れい岩類、二枚貝化石を含む上部三畳系の奥利根層群などから構成されています。足尾帯は、二畳紀の水無川変成岩類(片状ホルンフェルス・水無川層群)・三畳紀-ジュラ紀の非変成の干溝層群などから構成されています。

図幅地域の東半部には、上越帯および足尾帯の岩石を貫いて後期白亜紀-古第三紀の花崗岩類が広く分布しています。この花崗岩類は、只見川花崗岩と呼ばれており、この地域の東半分のほか、図幅地域の南方および北方に延長しています。岩相は、優白質で粗粒の黒雲母花崗岩ですが、場所によって斑状黒雲母花崗岩などに岩相変化することがあります。

また、この地域の西部と東部には、新第三紀の緑色凝灰岩層が基盤岩類を不整合に覆って分布しています。新第三紀層は、地域の西部では城内層群、東部では奥只見緑色凝灰岩層、中央部に荒沢岳デイサ

イト-石英斑岩類が分布しています。

ちなみに、深田九弥の「日本百名山」では、「越後三山」は「魚沼三山」、「越後駒ヶ岳」は「魚沼駒ヶ岳」と呼ばれています。深田氏のたどったコース沿いにどのような岩石が見えるのかを、地質図上に見てみましょう。まず、枝折峠から駒ヶ岳を経て中ノ岳の手前までは水無川変成岩類が分布しています。中ノ岳では中ノ岳斑れい岩、中ノ岳から八海山の間で再び水無川変成岩類に変わり、八海山では城内層の礫岩が分布しているというぐあいです。(T)

地質調査所の出版物について

問い合わせ：情報管理普及室 Tel. 0298-54-3606
購入：

- 地質調査所標本館(つくば市, 0298-54-3750)
- 東京地学協会(東京市ヶ谷, 03-3261-0809)
- 地学情報サービス(つくば市, 0298-56-0561)
- その他全国主要書店で注文販売しております。